case no.43

株式会社スイカン

中央会の支援で BCP（事業継続計画）策定

company profile

創立：1976 年（昭和 51 年）　事業内容：給排水衛生設備の工事・メンテナンス業

ザクッと言うと 3 ポイント

1. 青年中央会主催のセミナー受講を機に BCP 策定を決める
2. 中央会の専門家派遣を利用
3. 精査と見直しを重ねて BCP を育てることで、会社も成長していきたい

水環境のエキスパート

株式会社スイカンは、「蛇口をひねると当たり前のように綺麗な水が出る」生活を守るため、24 時間体制で地域の水に関する設備を支える水環境のエキスパートだ。このたび、中央会の支援で BCP 策定に取り組まれた。どんなご苦労があったのだろうか。代表取締役の松本雅稔さんと、総務部課長の森口冬樹さんにお話を聞いた。

本社ビル

左　松本社長、右　森口課長

策定までの道程

さっそく中央会の実施する「BCP 策定支援事業」に申込み、専門家派遣で件の佐藤さんの指導を受けられることになった。全 3 回に、希望して 1 回追加した全 4 回の派遣で、7 か月かけて計画書を策定する。

BCP の策定は、社員全員の協力無くしては成し得ない。まずは、部署ごとの部門長クラスを集めて、１回目は、セミナー形式で、BCP は何故必要なのか、どのような手順で作成するのかについての説明が行なわれた。早速、業務全体の棚卸しともいえる、洗い出し作業が始まった。

2 回目からは、実際に BCP を作る作業に入る。

それに先立って業務を全部書き出す作業は、たいへん地道な作業だ。日々の仕事に追われていると、業務の棚卸しをする機会など、そうあるものではない。だが、この緊急時の計画書を作る過程で、実は平時の業務の見直しも行なえる。無駄なルーティンはないか、属人化してしている作業はないか…洗い出し、明確化することで、業務全体が見えてくることから、会社全体の無駄を省き、属人化した業務の脆弱性を改善すると同時に、業務の効率化を図れる。業務の標準化が望める上、社員にとっても業務の俯瞰ができることから、モチベーションアップも期待できる。

棚卸しと並行して、BCP の作成も開始される。

業務を優先度から区分し、それぞれに復旧の期限であるマイルストーンを決め、最終的に、復旧手順を時系列で 1 枚の表にまとめた BCP Time Table へと落とし込む。

緊急時には BCP Time Table を基に各社員が行動し、
早期復旧を目指す

中央会　佐藤と
完成した BCP 冊子を手にする松本社長、森口課長

策定で得られたこと

近年は自然災害も多く、新型コロナに代表される感染症への懸念もあり、BCP の必要性がますます増している。スイカンの仕事は、災害時にも途絶えてはいけない大切な仕事であり、社会にも貢献できるものであるということが、今回の策定でより明確になった。

BCP を全社員に浸透させていくためにも、机上訓練から始め、書いてある通りの行動が本当にできるのか、抜けていることはないか、不合理な手順が含まれていないか…訓練ごとに精査していくことで、現場に沿った本当に使える計画書に育てていきたいと考えている。

---2022 年 3 月

担当者からひとこと

自社の日常業務を棚卸するという作業が、BCP の要となります。大変な作業でしたが、松本社長の号令と森口総務課長の進捗管理により、全部署で横断的に取り組んでいただけました。BCP を策定し、非常時にも中核事業を止めない・早期復旧することを宣言することで、取引先に対する信用力も上がるでしょう。また、業務棚卸に取り組んだ結果は、平時における業務の効率化や、中長期的な人材育成にも活かせると期待しています。

担当者：佐藤　拓